

## 令和元年度 国有林モニターアンケート（第2回）

国有林野事業では、国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林(もり)」とし、開かれた管理経営をおこなっていくため、国民の皆様からご意見を頂戴しつつ管理経営に取り組んでおり、その取組の一環として「国有林モニター制度」を実施しております。このたび、国有林モニターの皆様を対象に、国有林野事業に対するご関心や情報発信のあり方、また今後の国有林モニターの運営についてご意見・ご要望を伺うため、令和元年度第2回国有林モニターアンケートを実施いたしました。

つきましては、本紙にてその結果についてご報告させていただきます。なお、本アンケートには、国有林モニター38名のみなさまからご回答をいただきました。多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。

- アンケート実施時期：令和元年12月～令和2年1月
- アンケート実施対象：九州森林管理局の全国有林モニター48名
- アンケート回答者数：38名（回答率79%）

年齢別内訳		
	人数	比率 (%)
30代以下	2	5
40代	5	14
50代	8	22
60代	14	38
70代以上	8	22
計	37	100

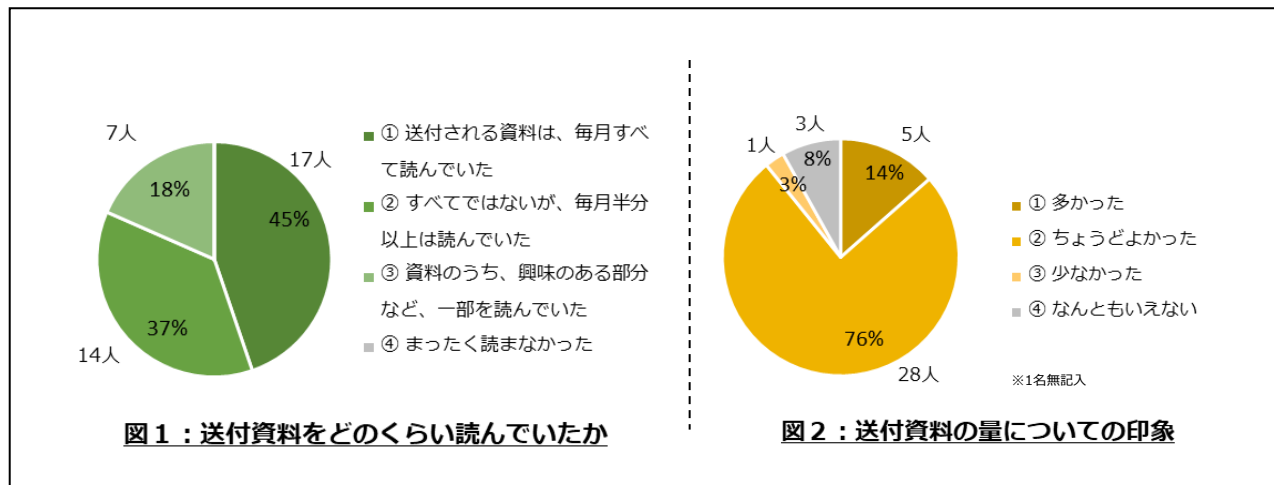
※無記名者1名は本表から除外

### I 毎月の資料送付について

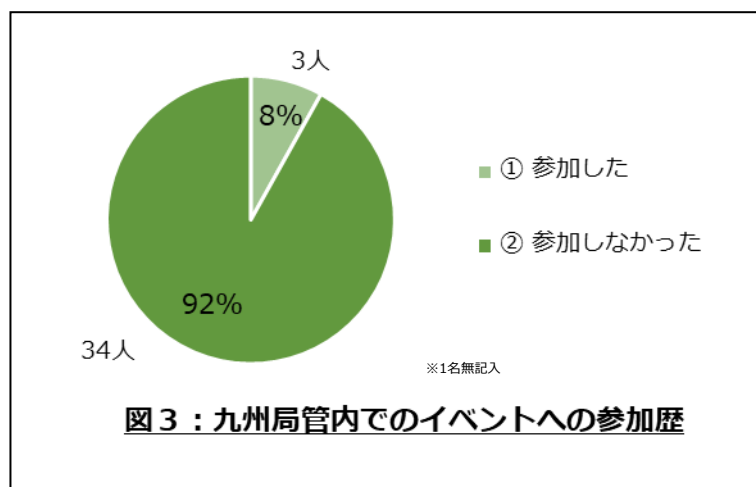
モニターのみなさまには毎月、広報誌等の資料を送付させていただいていたが、国有林モニターとしてご登録いただいていた2年間、これらの資料を読んでいたかについて、「①送付される資料は、毎月すべて読んでいた」、「②すべてではないが、毎月半分以上は読んでいた」、「③資料のうち、興味のある部分など、一部を読んでいた」、「④まったく読まなかった」の4つの選択肢のうちから選択していただいた。最も回答が多かったのは①で17人（45%）、次いで②で14人（37%）、③が7人（18%）で、最も回答が少ないのは④で0人（0%）であった。ほとんどの方が、送付される資料の半分以上は読んでおり、そのうちの半数はすべての資料を読んでいたということが分かった（図1）。

さらに、毎月の資料の送付量がどうだったか尋ねたところ、過半数以上の方（28人、76%）がちょ

うどよかったと回答した（図2）。これらのことから、資料の送付量については来年度以降もこれまでと同じくらいの量を目安としたい。



次に、今年度からモニターのみなさまに九州局管内で行われるイベント情報について共有していたが、これらの情報を見て実際にイベント等へ参加したかどうか尋ねたところ、参加した方はわずか3人（8%）にとどまった（図3）。



イベント情報の共有については、昨年度のモニターアンケート調査の際に、イベント情報を共有してほしいとの声があがったことから今年度よりとり入れたものであったが、実際の参加まではなかなか結び付かなかったようである。実際にイベント等へ参加された方は、ご自身の居住地から近い場所で開催されたものに参加されたようだったので、今後も管内で行われるイベントについては広く共有していくことを検討する。

そのほか毎月の資料送付に関する意見を求めたところ（自由記述）、以下のようなご意見があった（一部抜粋）。

- 毎月興味深く読めた。どれもみな新鮮で楽しく読めた。勉強になった。
- 関心のある人にコピーして渡すこともある。すべて大事に保存している。
- 「広報九州」は職員向けのように思われたので、モニターへの送付は情報誌林野のみでよいのでは。
- モニター活動にはあまり関係ないような堅苦しい内容のものが多かった。
- 資料の量もその内容も多すぎる。仕事をしている人にとってすべて読むのは難しいのでは。
- 読みたい資料ではなかった。
- モニター任期終了後も広報誌を読むにはどうすればよいか。

毎月楽しく読めた、といった多くのポジティブなご意見が寄せられ、中には知人に見せたり、ボランティア活動等の際に活用しているという方もいた。

一方で、堅苦しい資料が多かった、読みたい資料ではなかった、といったようなご意見もいただいた。モニターの方にどんな資料が読みたいか、どんなことに関心があるのかアンケート調査をするなどして、できる限りモニターの方の興味・関心に合わせた資料を配布することを検討していきたい。「広報九州」はモニターへの送付は必要ないのではとのご意見については、確かに本誌は個別具体的内容が多く、一般の方にとってはあまり身近ではない内容も含んでいるかもしれないが、九州森林管理局の様々な取組を紹介しており、モニターの方にも興味のある部分だけでも構わないのでぜひ読んでいただきたいと考える所存なので、今後もモニターの方へ送付してまいりたい。

送付資料が多すぎるとのご意見も一部いただいたが、前頁で記載のとおり、ほとんどの方には送付量はちょうどよかったとの回答をいただいているため、来年度以降も今年度と同じくらいの送付量を目安としたい。ただ、中には普段すべてに目をとおす時間がない方もいるかと思うので、配布資料の項目を示すなどして、興味・関心のある一部分だけでも目を通していただけるように努めたい。

モニター任期終了後も広報誌等の資料を読みたい、との声を多数いただいたが、普段配布していた広報誌等の資料はほとんどが林野庁ホームページ又は九州森林管理局ホームページにおいて公開している。毎月お配りしていた広報誌を今後も読みたいという方は、下記URLまたはQRコードからアクセスしていただきたい。また、これらホームページ上では、広報誌に限らず当庁、当局が行っている様々な事業や取組等の最新情報が掲載されているため、ご興味があればぜひ広報誌以外もご高覧いただきたい。

○情報誌林野（林野庁HP）

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kouhou/kouhousitu/jouhousi.html>



情報誌林野

○広報九州及び各種パンフレット（九州森林管理局HP）

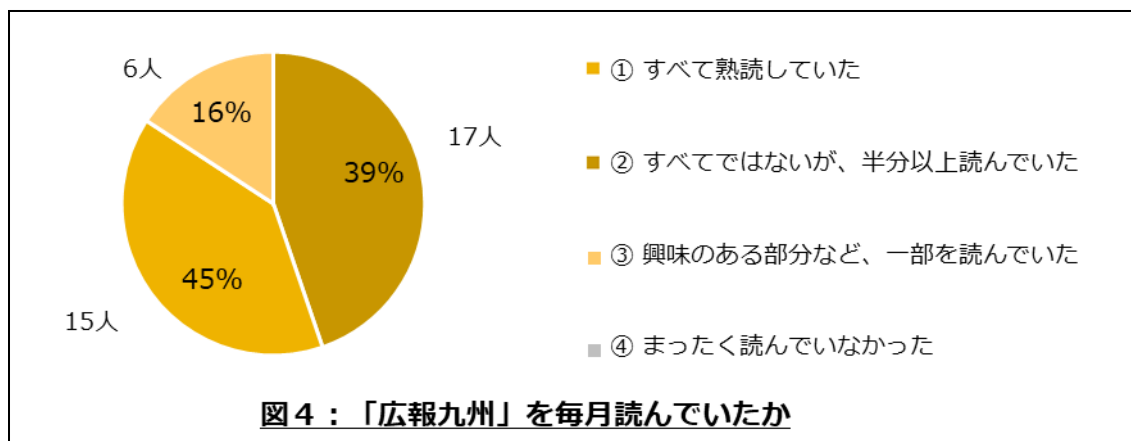
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/koho/koho\\_si/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/koho/koho_si/index.html)



広報九州

## II 「広報九州」について

毎月お送りしている資料のうち、九州森林管理局が発行している広報誌である「広報九州」について個別にご意見を伺った。まず、毎月「広報九州」を読んでいたかについて、「①すべて熟読していた」、「②すべてではないが、半分以上読んでいた」、「③興味のある部分など、一部を読んでいた」、「④まったく読んでいなかった」の4つの選択肢のうちから選択していただいた。最も回答が多かったのは②で17人（45%）、次いで①で15人（39%）、③が6人（16%）で、最も回答が少ないのは④で0人（0%）であった。ほとんどの方が、半分以上は読んでおり、そのうちのおよそ半数はすべて熟読していたということが分かった（図4）。



次に、「広報九州」にいただく印象について尋ねた。まず誌面の内容について「①専門的な内容が多く、理解するのが難しい」、「②一部分からない用語等があるが、内容は概ね理解できる」、「③内容はわかりやすく、よく理解できる」、「④内容は簡単すぎる」、「⑤分らない」の5つのうちから1つ選んでいただいたところ、最も回答が多かったのが②で20人（53%）、次いで③が13人（34%）、①が3人（8%）、④が1人（3%）、⑤が1人（3%）であった（図5）。

内容については、なるべく一般の方にも理解しやすい言葉や表現を使うように気を付けるとともに、専門用語を使う場面では注釈をつけるなどして、引き続き分かりやすい広報誌作成に努めていきたい。また、毎年モニターのみなさまに配布している「国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」には巻末の参考ページに「用語の解説」を掲載しているので、必要に応じてご参照いただきたい。

次に、誌面のデザイン・レイアウトについて「①見やすい」、「②見にくい」、「③分らない」の3つのうちから1つ選んでいただいたところ、ほとんどの人が「①見やすい」と回答した（24人、63%）（図6）。一方で、見にくいと回答した人（10人、26%）にどんなところが見にくいのか尋ねたところ（自由記述）、主なご意見として「字が小さい」、「行間が狭い」、「字数が多い」といったものや、どの記事がどのページに記載されているのか分かるようにしてほしいといったご意見もいただいた。

誌面の都合上、字の大きさにはどうしても限界があるが、字数や行間などを調整するとともに、より見やすい広報誌を作成できるよう工夫していきたい。

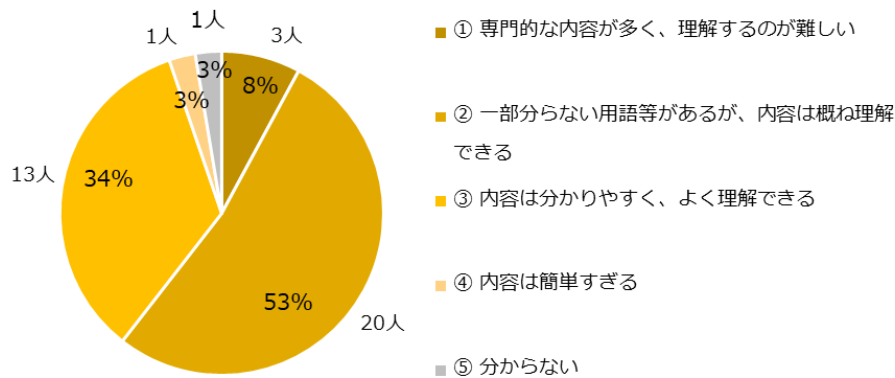


図5：「広報九州」の内容に対する印象

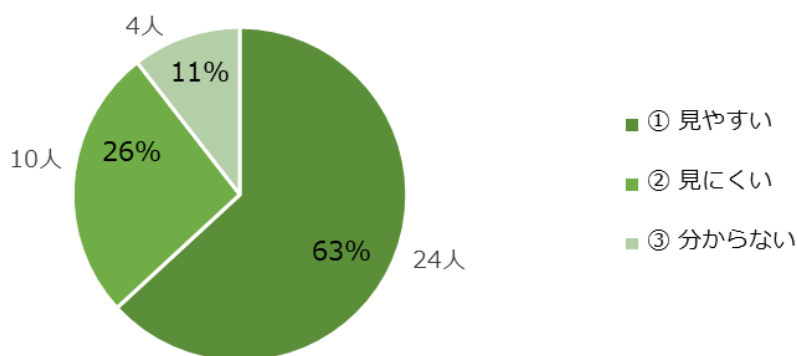


図6：「広報九州」のデザイン・レイアウトに対する印象

一方、これまでの「広報九州」において、特に印象に残った記事や興味を持った記事について尋ねたところ（自由記述）、以下のようなご意見をいただいた（一部抜粋）。

- 「監物台樹木園の多様な植物」
- 「モニターの声」
- 中学生の職場体験や、大学生のインターンシップに関する記事
- シカ被害や、シカ被害対策協定に関する記事
- 災害の復旧事業に関する記事
- 人事関連事項
- 新年の特別号（暖帯林）に掲載される局長のあいさつ文や、各課の取組事項
- 国有林材供給調整委員会の結果報告の記事
- 山開きに関する記事
- 「みどりの散歩路」

特に、「監物台樹木園の多様な植物」を毎月楽しみにされているという声が多数寄せられた。また、「モニターの声」についても、他のモニターの意見や考えが知れるので興味深く読んでいる、といったご意見が多数あったほか、中学生の職場体験やシカ被害対策に関する記事に関心を持ったとの声も多く寄せられた。身近な植物に関する情報や、ほかのモニターの考えといったご自身の生活と結びつけやすい記事に関心が集まりやすいほか、将来を担う学生への期待を寄せていることが分かった。また、シカ被害や、豪雨災害など、近年大きな問題となっている事項への関心の高さも伺えた。

また、その他「広報九州」についてのご意見やご要望を伺ったところ（自由記述）、下記のようなご意見をいただいた（一部抜粋）。

#### 掲載内容について

- もっと身近に感じられる内容にしてほしい。
- 林業の魅力を伝えるために、地域住民や若い世代に視点をあてたコーナーが必要では。
- 小学生などを対象とした森林環境教育の記事をもっと多くしてはどうか。
- 林業の状況（需給や価格等）をもっと多く載せてほしい。

#### レイアウト・デザイン等について

- 簡素で見やすく良いのでは。
- 絵本のように楽しいものが良い。
- 紙質が森林の感じがして良い。
- 紙質が悪い。
- 各森林管理署のトピックが羅列して紹介されているが、最初のページで地図とともに項目を示すと良いのでは。

#### その他

- 「監物台樹木園の多様な植物」の一番から全部読める方法を知りたい。
- モニターのうち希望者への郵送をやめ、ネットによる閲覧のみにしたらどうか。

掲載内容については、もっと一般の方にも身近に感じられる内容を載せてほしいとのご意見をいただいたほか、地域住民に焦点をあてたコーナーや森林環境教育に関する記事を掲載してほしいといったご意見をいただいた。記事の内容をより分かりやすく記載するように努めるとともに、一般の方にも親しみやすい記事を多く掲載することを検討していきたい。

レイアウト・デザインについては、誌面の都合上、また本誌の発行の目的上、イラストなどを多く載せたりすることは困難であるが、写真を多めに掲載したり色づかいを工夫するなどして、より読みたくなるような広報誌となるよう、検討してまいりたい。

また、広報誌の紙質についてご意見をいただいたが、当局では地球温暖化防止のための森林吸収源対策を促進する観点から、印刷には間伐材を使用した用紙を使用している。そのため、紙質が一般の用紙よりも劣っているように感じられるかもしれないが、ご理解いただきたい。

「監物台樹木園の多様な植物」のこれまでの分については、当局広報室にて保管されている過去の「広報九州」に掲載されているため、ご興味があればご連絡いただきたい（TEL：096-328-3600）。

モニターのうち、希望者のみネットによる配信としたらどうかとのご意見については、来年度以降検討してまいりたい。

さらに、「広報九州」において「モニターの声」という項目を設けており、毎月モニターの方に文章を寄稿いただいていたが、この「モニターの声」執筆にあたって、締切までの期限や、書く文の量や内容などに関して困ったことがなかったか尋ねたところ（自由記述）、主なご意見として、字数に関するご意見（要約するのに苦労した、指定の字数以上記述するのに苦労した）をいただいたほか、「広報誌掲載後にお礼の電話連絡もなく、掲載されたのか不明であった」、といったご意見もいただいた。通常、

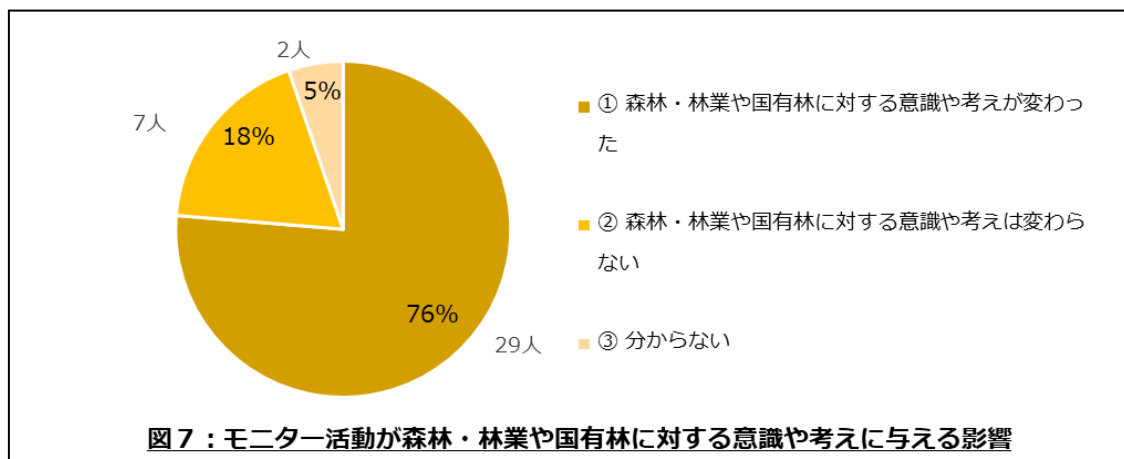
原稿をご提出いただいたあと、掲載号の報告とご寄稿に対するお礼をメールにてご連絡差し上げているが、広報誌掲載後に改めてお礼とともに電話やメールでご報告するなど、対応については改善していきたい。

そのほか、「自分の意見が広報誌に載って嬉しい」、「自分の文章を知人に読んでもらい、感想を聞いて嬉しかった」といったご意見もいただいた。モニターの方には指定の文字数で期限までに文章を書くのにお手数をおかけするかと思うが、なるべく期限に余裕を持って依頼をさせていただくとともに、しっかりとお礼のご連絡を差し上げるなど、誠実な対応を心がけて、これからも文章のご寄稿をお願いしてまいりたい。

### Ⅲ これまでの国有林モニター活動について

最後に、これまでの2年間の国有林モニター活動を振り返って、今後のモニター活動等に対するご意見を伺った。

まず、この2年間の活動をとおして、ご自身の森林・林業や国有林に対する意識や考えが変わったか尋ねたところ、ほとんどの方（29人、76%）が「①変わった」と回答した（図7）。



具体的にどのように変わったか尋ねたところ（自由記述）、以下のとおりであった（一部抜粋）

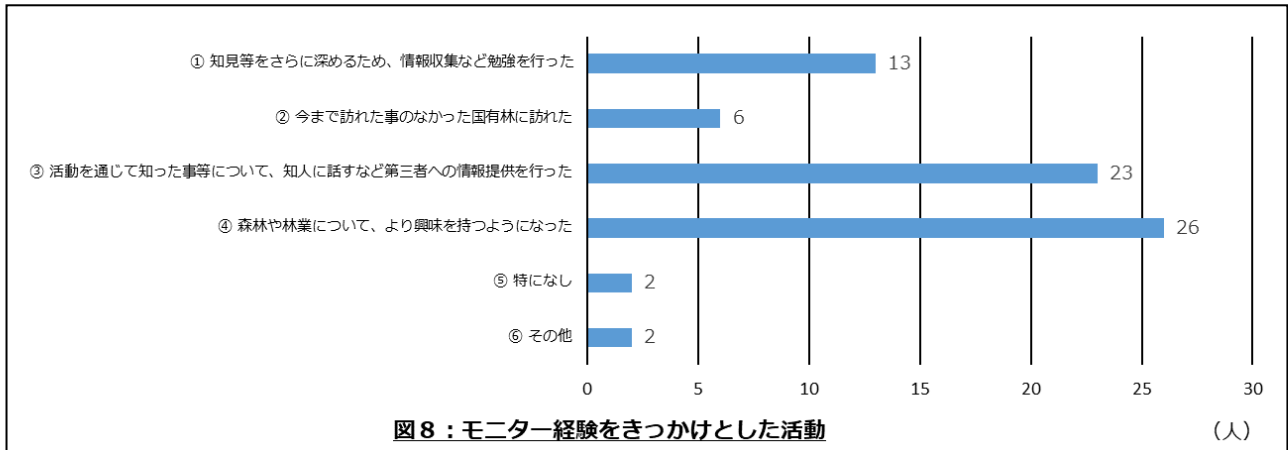
- 森林の重要性について理解が深まった。
- 森林・林業についての知識が増えた。
- 山や森林の見方が変わった。管理面が気になるようになった。
- 森林や国有林に関する新聞記事等に目が留まるようになった。
- 林野庁や九州森林管理局がどんなことをしているのか、具体的に分かった。そしてそれらの取組を進めていくにあたってどんな問題があるのか理解できた。

多くの方から、森林・林業についての知識や理解が深まり、その重要性を再認識した、といったご意見をいただくことができた。また、林野庁や森林管理局がどのようなことをしているのか分かった、というご意見では、特に山崩れの防止や自然災害からの復旧といった治山事業をしていることを初めて知ったという声が多くあった。

一方で、「②変わらなかった」と回答した方（7人、18%）からは、「得たかった情報が得られなかった」、「元々、森林インストラクターとして活動しているため、知識は増えたが意識や考えは変わらない」といったご意見をいただいた。モニターの方の興味・関心を調査するなどして、有意義なモニター活動となるよう、努めてまいりたい。

次に、国有林モニターで得た経験や知識を活かして、今年度ご自身で取り組まれた活動等について、「①知見等をさらに深めるため、情報収集など勉強を行った」、「② 今まで訪れた事のなかった国有林に訪れた」、「③ 活動を通じて知った事等について、知人に話すなど第三者への情報提供を行った」、「④ 森林や林業について、より興味を持つようになった」、「⑤ 特になし」、「⑥ その他」の6つのうちから選んでいただいたところ（複数回答可）、図8の結果となった。





多くの方が「④ 森林や林業について、より興味を持つようになった」、「③ 活動を通じて知った事等について、知人に話すなど第三者への情報提供を行った」と回答した（26人、68%；23人、61%）。また、「⑥その他」の回答の中には、「ボランティア活動としての私有林での伐採」といった回答をいただいた。

最後に、これまでの2年間のモニター活動についての感想、お気づきの点や、今後の国有林モニターの運営についてのご提案やご意見について伺ったところ（自由記述）、以下のような回答が得られた（一部抜粋）。

モニター活動をとおして感じたこと

- 林野庁、森林管理局の数々の取組に驚き、知ることができて良かった。勉強になった。
- 安全で豊かな森を造成するために、森林の伐採も必要な場合があると学ぶことができた。
- モニター会議で豪雨災害の現場を視察出来て感謝している。
- もらった広報誌などの資料を後々まで活用していきたい。
- 今後も森林に興味を持ち、何らかの形で貢献したい。
- 昨年、視察で訪れた朝倉市などの災害復旧事業の進捗状況を知りたい。

広報に関するご意見

- 広報誌を各地域の市役所等に置いてだれでも読めるようにすべき。
- Twitter等のSNSを活用した広報をもっとするべき。

今後のモニター活動についてのご意見

- 資料の送付やアンケート調査だけでなく、年に一度はモニター会議を開催すべき。各県ごとに小規模な会議を行ってはどうか。
- 年間のテーマを定めてそれに沿った資料配布やモニター会議ができれば考えを深められるのでは。
- 森林に目を向ける人を増やすためにもモニター活動をさらに広めることが必要。
- 九州だけでなく、ほかの地域や諸外国と交流や情報交換できるとよいのでは。
- モニター同志の交流の場がほしい。
- 謝金の支払いが必要では。

いただいたご意見のうち、モニター活動をとおして感じたこととしては、資料や現地視察をとおして

様々なことを学ぶことができた、といったご意見を多くいただいたほか、送付された資料は今後もボランティア活動等に活用したいとの声もあがった。また、昨年度開催したモニター会議で訪れた、朝倉市における民有林直轄治山事業の情報については、当局ホームページや「広報九州」、パンフレット「九州の国有林」等で情報提供していくので、こちらをご覧ください。

広報に関するご意見も多数いただいた。「広報九州」及び「情報誌林野」は市役所等にはお配りしていないが、p.3でも記載のとおり、ホームページ上で一般向けに公開しているため、引き続き積極的な情報発信に努めてまいりたい。また、SNSの活用については、林野庁公式Facebook（<https://www.facebook.com/rinyajapan>）で活動しているところなので、ご興味があればご覧いただきたい。

今後のモニター活動に対するご意見としては、複数の方から、現地を見ることは重要なのでモニター会議は年に1回は開催すべきとのご意見をいただいた。今年度はアンケート調査によりモニターの方のご意見を聴取することに重点を置き、代わりに九州局管内で行われる一般参加可能なイベント情報を共有させていただいていたが、来年度以降のモニター会議の検討に当たっていただいたご意見を参考にしてみたい。併せて、年間のテーマを定めてそれに沿って活動する、というご提案についても来年度以降の活動方針の検討に当たって参考にしてみたい。

さらに、モニター活動を広めることが必要とのご意見があった。これについては、すでに多くのモニターのみなさまに第三者への情報提供をさせていただいているため、引き続きモニターのみなさまにこうしたご協力をいただくとともに、当局でもより多くの方にモニター制度を知っていただけるよう、積極的な情報発信をしていきたい。

モニター同志の交流を図りたいとのご意見も多数いただいております。これについてはモニター会議開催の際に交流時間をとることなどを検討していきたいが、個人情報保護のために、モニターの方のお名前や連絡先等をこちらから提供することは出来ないことをご理解いただきたい。

また、各県ごとの会議の開催や、九州以外の地域や諸外国との会議の開催についてご提案をいただいたが、経費の都合上、複数の会議の開催や、遠方での開催は難しいことをご理解いただきたい。ただし、モニター会議開催の際には少しでも充実したものとなるよう企画するとともに、引き続き一般参加可能なイベント情報を周知し、国有林や森林・林業に触れていただく機会を提供していきたい。

さらに、謝金の支払いが必要ではとのご意見もいただいたが、モニターの方へは1年間の活動に対する謝礼として、国有林野事業への理解を高めていただけるような記念品を贈らせていただいているので、ご理解いただきたい。

## IV まとめ

モニター任期期間中の2年間広報誌等の資料を送付していたが、これらについてはほとんどの方に半分以上は読んでいただけており、勉強になったという声を多数いただいたことに加え、中にはこれらの資料を使って第三者へ情報提供もしている方もいるということが分かった。また、ほとんどの方から、モニター活動をとおして国有林や森林・林業に対する意識や考えが変わり、森林・林業により興味を持つようになったとの回答もいただいた。これらのことから、国民の皆様からの国有林野事業に対する幅広い理解と支援を得る、という点において、モニター制度は一定の成果があったものと考えられる。

「広報九州」については、今回のアンケート調査の結果やいただいたご意見を踏まえ、一般の方にとってより親しみやすいものとなるよう検討し、より多くの方へ国有林野事業や森林・林業について情報発信していけるよう努めてまいりたい。

今回のアンケート調査では、ほかにもモニター制度や広報活動に関する有意義なご意見が多数寄せられた。いただいたご意見は、必ずしもすぐに対応できるものばかりではないが、国有林野の管理経営に反映すべきものについては、順次対応していきたいと考えている。

アンケート結果は以上となります。ご協力いただき、ありがとうございました。

### <連絡先>

住 所： 〒860-0081 熊本県熊本市西区京町本丁2-7  
九州森林管理局 総務企画部 企画調整課  
電 話： 096-328-3642  
メール： ky\_kikaku@maff.go.jp  
担当者： 角田